

# 千葉県立鶴舞看護専門学校

## 学びの特徴





プロジェクト学習で主体的な学習を進めよう！



体験から学び、自ら学びを獲得しよう！



グループワークやプレゼンテーションで学びを  
広げよう！



少人数制で学びやすい学習環境

# プロジェクト学習とは

プロジェクト学習とは、プロジェクトの考え方やセオリーを学習に取り入れた新しい教育手法です。

プロジェクトとは「目標を達成する構想」を指します。

一言で言えば、価値あるものをつかむことです。プロジェクトを成すためには、必要な知を手に入れ課題を解決する必要があります。ゴールを見据え全体を見通して向かうことも大事です。進行がぶれないために、常に

「何のために（目的）、何をやり遂げたいのか（目標）」を確認しながら向かいます。

# 学生の声

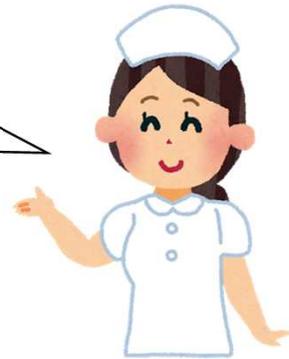
プロジェクト学習を行ってみて、ビジョンゴールという目標を立ててから行動をすることで、自分にいま不足している点が明確化されたように感じます！



患者様から情報を取る際、当初の目標を再確認することで何を聞くのが適切か考え出すことができました。実習中には必ずビジョンゴールシートを読み返し追加修正することが重要です。合わせて、ポートフォリオを読み返すことで、実習で学んだことを自分の中に定着させることに繋がったと感じています！



プレゼンテーションを行い、他者評価をいただくことで、自分を肯定的に捉えることができ、次の実習での課題も発見することができました！



# 学生の声

看護問題を抽出する学習方法から、患者様のニーズや希望に沿った看護計画立案の学習方法へ移行し、最初はやり方がよくわからず戸惑いました。しかし、問題点を見つけるばかりではなく、対象者の強みを見つけ、それを伸ばすことも看護であることや、必要な看護ケアであっても、対象者が望んでいなければ実施できないこと、時には見守ることも看護であることを実習を通して学びました。

患者様を主体にした課題解決のプロセスを考え、実施する一方で私たちもまた自己主体性の課題に挑戦しています。



# プロジェクト学習 知の成果物

計画を変更する勇気をもつこと！を提案し対

## 課題と現状

日々かわる患者の状態に、臨機応変に対応することができなかつた。

- 計画通りに達成させなければいけないという思いが、予則を超越していた。
- 心の準備ができていなかった。



## 具体的な提案

- ◎朝、訪室時の患者の状態に驚かさない。
- ◎患者の変化や要求は予想以上であることを心得ておく!!
- ◎患者に必要な援助の優先順位のため、数パターン考えておく → 危険・安全・患者の思い
- ◎自分ひとりで判断できかねる時は教員、指導者、グループメンバーに相談する。

◎患者の状態に合わせた対応

## 解決策

先入観を捨て、客観的に患者の状態を見る。

計画は数パターン用意しておく。

## 寄り添うことは一人ではできない

### 現状と課題

患者さんを見ていて、モリだが、自分しかえていない。

### 解決策

→ グループ内での問題の共有  
 ・自分の弱みに気づき、自分の思いを素直に伝える。  
 ・あせりない  
 →「今は上手に出来なくて良い」

### 開く勇気・話す勇気

### 具体案

行動前に一呼吸置いて俯瞰する。  
 不安や恐怖を相談する



```

    graph TD
      A[実習評価] --> B[不安・怖い]
      A --> C[関わり方]
      B --> D[援助]
      C --> D
      D --> E[何かしないと(どうすればいいか)]
      E --> F[あせり]
      F --> G[自分のことしか見えていない]
      G --> H[抱え込む]
      H --> I[相談できる]
      I --> J[病棟の雰囲気]
      I --> K[こんなこと言っているか]
  
```

## 基礎看護援助法 V （臨床判断の基礎）



2年生の授業です。  
看護師（教員）が脳梗塞をおこした50代の男性患者さんの瞳孔の状態や麻痺の状態を観察しています。  
なぜ瞳孔を観察するのだろうか？腕を上げて何をしているの？



患者さんの家族の面会がありました。  
家族に見せる姿や話す内容を考えます。